

氏名	松岡 崇暢
授与した学位	博士
専攻分野の名称	学術
学位授与番号	博甲第3874号
学位授与の日付	平成21年 3月25日
学位授与の要件	自然科学研究科 資源管理科学専攻 (学位規則第5条第1項該当)
学位論文の題目	地域資源の維持管理に向けた地域住民及びNPO活動の果たす役割
論文審査委員	教授 品部 義博 教授 市南 文一 准教授 金 哲

### 学位論文内容の要旨

地域環境の悪化は様々な要因により引き起こされ、国民生活に多大な影響を及ぼすのではないかと懸念されている。農家は、農業生産活動や日常的な生活の営みとして、農地周辺の森林、里山、河川などの地域資源に手を入れ活用し、維持管理することで多面的機能を発揮させてきた。

本論文の構成は、第1章にて研究背景と問題意識を設定し、第7章で纏めている。第2章は、地元農家とNPOの会員が協働で農業用水路を維持管理している事例を取り扱い、協働の継続性についてNPOの会員を対象としたアンケート調査から分析をしている。なお、取り扱った研究対象地域は、都市近郊の農村地域で農業用水路に絶滅危惧種の生息が確認され、その生息環境を保全していくためにNPOの会員と協働で農業用水路の維持管理をしている。第3章は、第2章と同様の研究対象と地域である。地元農家とNPOが農業用水路を協働で維持管理に至るまでの経緯を整理し、集落悉皆のアンケート調査から協働の成立要因と意義を明らかにした。第4章では、耕作放棄地を解消していくためにNPOが地域コーディネーターとなり市民活動として農業に取り組む地域住民に対して、耕作放棄地を紹介斡旋している愛知県犬山市の事例を取り扱った。耕作放棄地を解消していくために、地域住民を巻き込み集落機能の低下を補う取り組みは、地域環境を保全していく上でどのような影響や意義があったのかを明らかにした。第5章では、吉備地区内の3町内会が地区内を流れる、農業用水路を定期的に維持管理している事例を取り扱った。町内会に属する地域住民はどのような地域用水機能の価値を評価し、維持管理に参加協力するようになったのかアンケート調査から分析をした。第6章では地域環境活動まで範囲を広げ、地域住民が取り組むNPO活動の実態を明らかにし、NPO活動の意義と役割を広く捉えることを試みた。

NPO活動の継続性は、知的好奇心が旺盛で意欲的な会員によって支えられていた。しかし、会員の多くは過失や事故、地元住民との軋轢について配慮し危惧していた。このような問題は、会や会員個人では対応することは難しく、行政の仲介やワークショップを開催するなど地元住民との交流や話し合いの場を設ける支援を必要としていた。また、農業用水路を維持管理していくためにNPOとの協働が成立した要因を明らかにした。地元農家は自然環境の悪化に対して敏感になっており、絶滅危惧種であるスイゲンゼニタナゴが、農業用水路内にて生息確認されたことについても好意的に受け止めていた。そのため、農業用水路を自然工法にて改修を行ったことについて理解を示す一方で、維持管理の負担が増加することを不安視していた。スイゲンゼニタナゴの保全活動に取り組むNPOと自然を保全していくなど、意向が合致したことから協働で維持管理するように至った。協働で維持管理していくことで、都市農村交流に関心を持つ、環境意識が高まるなどの波及効果があり、協働で維持管理することは意義ある取り組みであることが明らかになった。

地域環境保全に向け地域住民が耕作放棄地を農地として利用していくことは、地域資源の維持管理、多面的機能の発揮、地域住民が賦役へ参加協力することで集落機能の低下を補う取り組みとして意義のあるものである。NPOが地域コーディネーターとして調整することで、活動促進につながり多大な影響があった。

非農家を中心とした地域住民は、農業用水路の地域用水機能の中で水辺景観・伝統文化を高く評価し、今後も一部残すことを含め保存意向が高かった。このことから、地域用水機能の便益を高く評価したことが、維持管理への参加協力につながっていると考えられた。

## 論文審査結果の要旨

我が国の農村では農家と集落が農地や周辺の森林、里山、灌漑水利施設などの地域資源を維持管理し、農業生産を支えるとともにいわゆる多面的機能を発揮させてきた。しかし、多くの農村では世帯員個々の自立化、兼業化、高齢化などが進み、いわゆる農家の脱農化ともいえる変化が生じて集落機能が次第に低下し、地域資源の維持管理を困難にさせてきている。本研究は、農家との協働で集落機能の低下を補完しながら地域資源を維持管理し地域環境の保全に寄与している地域住民やNPO活動に着目し、協働の成立条件、及ぼす影響、継続性などについて検討を行うことを通して、協働が果たす意義と役割を明らかにしようとしたものである。

研究方法としては、用水路や耕作放棄地など複数の協働の対象たる地域資源を取り上げて協働の内容を明らかにするとともに、地元農家、近隣の地域住民、それを越えた広域的な住民など異なる主体を対象とする詳細な協働参加者調査を実施して解析を行い、地元農家の協働に対する評価、地域住民の活動に対する意識などについて興味ある事実を導き出している。

本研究によれば、地域資源の維持管理における協働という点で地元農家の評価は高い。都市農村交流や身近な環境への関心の高まりといった効果も認められる。これに対して住民側においては地域資源のもつ多面的機能を認め、かつ希少性の高い地域資源ほど協働が成立しやすいことにも示されるように地域環境への知的好奇心を満たすものとして協働に参加する。従って協働が継続性をもつ可能性は充分あるが、地元農家との軋轢などその障害が全くないわけではない。農地や農業用水路はあくまで農家や集落にとって農業生産のために供される資源であり、地域住民にとって関与しづらい面も持つ。これらのことから、本研究は、地元農家と地域住民をつなぐコーディネーターとしてのNPOや行政の関与が求められていることを指摘する。

以上、農村が直面する地域環境保全の問題に関して詳細な実証に基づき解明を行った本研究は、学問的にも興味深い知見を得ており、よって本論文が博士の学位論文に値するものと認定する。